【本会の活動状況】

# “Nobody’s Perfect”の効果測定を実施します

本会代表（精神科医）　**原田　正文**

## 今年はじっくりと

本誌１月号に「今年の目標」として、「プログラム評価という視点からのＮＰおよびＢＰの実践と質の向上のための活動を進める」と述べました。確かに昨年は『ＮＰセッション計画の作り方とセッション事例集』『ＮＰに役立つアイスブレイク集』などの冊子の作成、「親子の絆づくりプログラム“赤ちゃんがきた！”」（愛称ＢＰ）という新しいプログラムの制作とお披露目フォーラムの開催、そしてＢＰの実践のスタートとあわただしい１年を過ごしてきました。今年度はそれらの取り組みを「プログラム評価」という視点に立ち、じっくりと評価し、質の高い実践にしていきたいと考えています。

## 社会的説明責任を果たす

今月号では、ＮＰおよびＢＰに関する取り組みをプログラム評価という視点から、その位置づけとその意義について考えます。

具体的な取り組みは、

①“Nobody’s Perfect”（ＮＰ）の効果測定

②ＢＰに関するいくつかの取り組み（冊子『ファシリテーター・ガイド』、参加者からの評価とファシリテーターからのフィードバック、プログラムの実践現場の視察など）

です。

現在本会が取り組んでいるＮＰやＢＰという親支援プログラムを取り巻く状況を図１に示します。

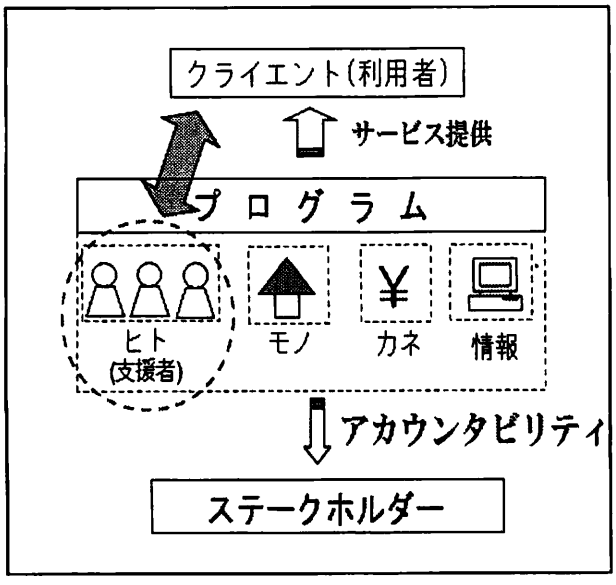


図１　プログラム実施に関係する人・物・団体などの社会関係図

この図に示していますように、本会は親子を対象にプログラムを実施することにより、サービス提供を行っています。一方、プログラムの実施には行政や民間団体などのプログラムの主催者がいます。主催者は、プログラム実施のために資金や場所、人材などを提供してくれています。また、実際にプログラムを実施する人材としてファシリテーター養成講座を開催しています。本会は、主催者やファシリテーターに対して、これらのプログラムを実施する価値があることを説明する義務があります。その説明責任のことを「アカウンタビリティ」といい、最近よくつかわれる言葉です。今年度の事業の重点は、一言で言えば、アカウンタビリティを果すための取り組みです。図１には、このプログラムに何らかの利害関係を持っているステークホルダーに対するアカウンタビリティのみを示していますが、「このプログラムはいいですよ！」と参加者を募集するわけですから、参加者に対する説明責任も当然あります。

## ＮＰの「アウトカム評価」

プログラム評価と言いますと、「このプログラムに参加するとどんな効果が得られるのか」という「アウトカム評価」がまず頭に浮かびます。図２は、「アウトカム評価」を概念的に示しています。プログラムに参加することにより、付加価値が上がる必要があります。本会が今年度から２年間で、本会の所属するファシリテーターが実施するすべてのＮＰプログラムを対象に実施しようとしている「効果測定」は、このアウトカム評価に当たります。「アウトカム評価」は、そのプログラムで謳っている効果が実際に得られたかどうかを判定することです。

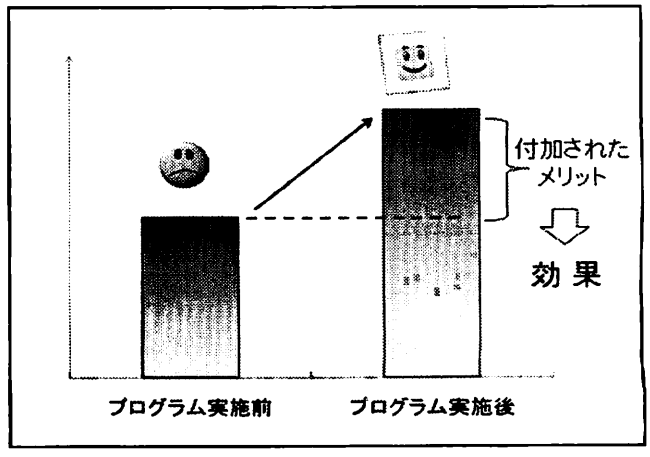


図２　「アウトカム評価」の概念図

# BPファシリテーター・ガイドが完成します！

本会はＮＰを始めてすでに９年目になりますが、今までアウトカム評価をしていませんでした。それはひとつには、私たちが指導を受けたマスタートレーナー、バーバラさんが「ＮＰでは、プログラムを受けてどうだったか、を参加者に評価してもらうのであり、参加者を評価することはしない」と言われていたのが、強く印象に残っているからです。もうひとつには、ファシリテーターがＮＰにまだ十分習熟していない段階で評価されも･･･ という思いがありました。しかし、行政などのステークホルダーからの評価の要請は強く、一方で『ＮＰのセッション計画づくりとセッション事例集』を発刊したことで、本会のＮＰの質がそろってきたこともあり、実施することになりました。　実施にあたっては、ファシリテーターのみなさんに多大な労力をおかけすることになりますが、よろしくお願いします。具体的な実施の方法については、実際にＮＰを実施されるファシリテーターのみなさんに直接詳しく説明をさせていただきます。

## ＢＰの実施体制が整う

一方、ＢＰの方では、始まったばかりのプログラムですので、もっといろいろなことに緊急に取り組む必要があります。図３に、プログラム評価の各段階を概念的に示します。図３では、「プログラム作成と実施に関する作業」と「プログラム評価に関する作業」に分けて書いています。「プログラム作成と実施に関する作業」についても、プログラム評価がなされます。例えば、「このプログラムは社会的ニーズにマッチしているのか」「このプログラムのベースになっている理論は適切なものか」「プログラムを実施するための体制は整っているのか」などです。ＢＰの場合は、この段階の作業もまだ続いています。

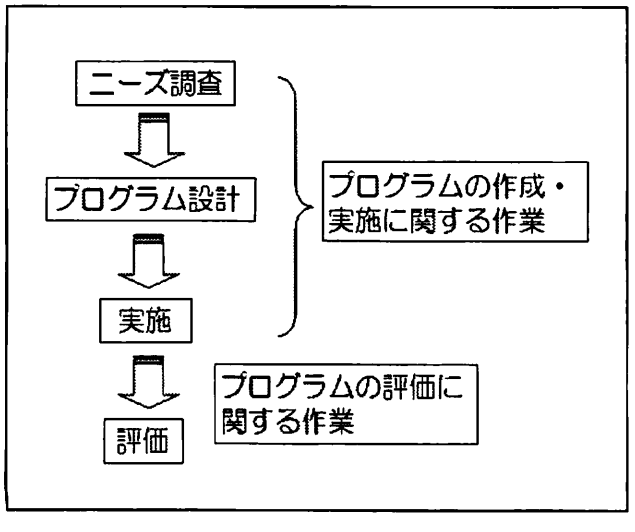


図３　プログラム評価の各段階

例えば、ＢＰの実施に使われる参加者用テキストやＤＶＤは昨年度に作成しましたが、ファシリテーター・ガイドはまだ完成していません。このファシリテーター・ガイドは、この６月末までには冊子として完成する予定になっています。この完成により、ＢＰの実施に必要な準備物は一応すべて整います。

## ＢＰのプロセス評価のお願い

ＢＰに関しては、昨年12月よりファシリテーター養成講座が開始され、本年２月からは０歳の子どもを初めて育てている母親対象に実際にＢＰプログラムの実践がはじまっています。
「養成したファシリテーターが、ＢＰプログラムを理論通りに実施しているのか」「実際にＢＰプログラムを実施した場合、予想している通りにプログラムが進行するのか」などについても検討する必要があります。この作業を「プロセス評価」と言います。本会では、プロセス評価をし、ＢＰプログラムをより良いものにするために、トレーナーが実際のＢＰプログラムの実施状況を見学させていただくことにしています。自分の実践を見られるのは緊張するし、何か言われそうで嫌な方もいらっしゃるかとは思いますが、ＢＰを良いプログラムにするために、ぜひご協力いただきますようお願いいたします。

## ＢＰの実施体制と「アウトカム評価」

ＢＰの「アウトカム評価」結果については、本誌３月号でも少し紹介しましたが、今のところたいへん好評です。今後とも参加者によるプログラム評価（「アウトカム評価」）を継続していきたいと考えています。それとともに、ＢＰプログラムを実施したファシリテーターのみなさんにも実施してのご意見をいただくためのアンケート調査をあらたに実施したいと考えています。そして、ＢＰプログラムをより良いものに作り上げていきたいと考えていますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。
「プロセス評価」という視点からは、本会におけるＢＰの実施体制についても充実させることが求められています。ＢＰプログラムの作成を担当してきた「ＢＰプロジェクト」は一応本年３月末をもって解散し、あらたにＢＰを実施するためのプロジェクトを本会内部に４月より立ち上げています。一年くらいを目途に、ＢＰ実施体制の在り方をこのプロジェクトで実践的に検討していくことにしています。「今年はじっくりと」と言いながら、課題が山積していますので、事務局では毎日仕事に追われる日々を送っています。
なお、図１～３は、昨年のフォーラムで基調講演をしていただきました藤後悦子先生のスライドを使わせていただいています。

（大阪人間科学大学　副学長）